

- 問1 663年の白村江の戦いにおいて唐・新羅の連合軍に大敗したのち、倭（日本）は国家存亡の危機に直面しました。この事態を受けて即位した天武天皇が、天皇を中心とする中央集権体制を確立するために、人々の氏姓を整理し、全国規模で初めて作成した戸籍を何と呼びますか。 (2024年 鳥取公立入試 類似)
1. 庚寅年籍
 2. 庚午年籍
 3. 班田収授法
 4. 墾田永年私財法
- 問2 白村江の戦いにおける日本の敗北は、その後の日本の政治体制にどのような影響を与えたと考えられますか。その背景と目的を説明した文として最も適切なものを選んでください。 (2022年 静岡公立入試 類似)
1. 唐や新羅による侵攻の危機に直面したため、天皇中心の中持集権国家を急いで確立し、国力を強化しようとした。
 2. 朝鮮半島での勢力を完全に失ったため、大陸との交流を一切断ち切り、国風文化を発展させるきっかけとなった。
 3. 地方の豪族が独自に軍隊を持つことを奨励し、各地の守りを固めさせることで軍事力の分散を図った。
 4. 唐の制度を模倣することをやめ、日本の伝統的な部族連合体制をより強化することで結束を高めようとした。
- 問3 7世紀、日本は友好関係にあった百済が滅亡した際、その復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送りました。このとき、日本軍が白村江で戦い、大敗を喫した相手である二つの国の連合軍として正しいものを次の中から選びなさい。 (2023年 福井公立入試 類似)
1. 唐と新羅
 2. 隋と新羅
 3. 唐と高句麗
 4. 元と高麗
- 問4 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。 (2020年 奈良公立入試 類似)
1. 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。
 2. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。
 3. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百済を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。
 4. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。
- 問5 天智天皇の死後、その後継者をめぐって起きた672年の壬申の乱に勝利し、天皇を中心とした強力な支配体制の確立を目指した人物は誰か。 (2018年 岡山公立入試 類似)
1. 聖徳太子
 2. 天武天皇
 3. 中大兄皇子
 4. 桓武天皇
- 問6 「第一条に、和をなによりも大切なものとする事」「第二条に、仏・法・僧の三つの宝を敬うこと」「第三条に、天皇の命令を承ったときは必ず謹んで従うこと」といった内容が記されている資料の、歴史的な背景として最も適切なものはどれですか。 (2023年 長崎公立入試 類似)
1. 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権体制の基礎を築こうとした。
 2. 遣唐使によってもたらされた最新の法律制度をそのまま導入し、法治国家を目指した。
 3. 武士が政治の実権を握ったため、朝廷の権威を取り戻すための軍事的な規則を定めた。
 4. 仏教を国教として定め、寺院が政治に介入することを認める特権を与えた。
- 問7 7世紀後半の日本の政治情勢について、壬申の乱に勝利した天武天皇が、天皇を中心とする中央集権体制をさらに強めるために実施した制度や仕組みの説明として、適切なものはどれか。 (2021年 埼玉公立入試 類似)
1. 豪族たちを天皇を頂点とする新たな序列に組み替えるため、八色の姓を定めた。
 2. 有力な豪族であった蘇我氏を滅ぼし、公地公民の原則を打ち出した。
 3. 律令を完成させ、日本で初めてとなる本格的な都である藤原京を完成させた。
 4. 班田収授法を停止し、開墾した土地の永久私有を認める法律を制定した。
- 問8 7世紀後半、日本（倭）が「白村江の戦い」で唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州地方では大規模な防衛施設の建設が進められました。大宰府を守るために築かれた、全長約1.2kmにおよぶ巨大な土塁と、背後の山に築かれた朝鮮式山城の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 茨城公立入試 類似)
1. 水城と大野城
 2. 鴻臚館と多賀城
 3. 屋島城と基肄城
 4. 金田城と板付遺跡
- 問9 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋（ずい）へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 遣隋使
 2. 遣唐使
 3. 遣明使
 4. 朝鮮通信使
- 問10 白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に敗れた日本は、大陸からの侵攻に備えて国防を強化しました。その際、九州の大宰府を守るために築かれた土塁と堀の名称、および九州沿岸の警備についた兵士の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 香川公立入試 類似)
1. 水城（みずき） — 防人（さきもり）
 2. 多賀城（たがじょう） — 健児（こんでい）
 3. 屋島城（やしまのき） — 東山道兵
 4. 山城（やまじろ） — 武士（ぶし）
- 問11 律令国家の形成過程において「公地公民」という原則が示された目的として、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 鳥取公立入試 類似)
1. 豪族による土地や人民の私有を禁止し、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため
 2. 農民の開墾意欲を高めるために、新しく耕した土地を永久にその人の私有地として認めるため
 3. 地方の豪族に一定の土地の支配権を残し、朝廷に協力的な姿勢をとらせることで内乱を防ぐため
 4. 仏教の教えに基づき、すべての土地は神仏のものであるとして、寺院が土地を管理する体制を作るため
- 問12 飛鳥時代、聖徳太子が仏教を政治に取り入れた影響を受け、各地の有力な一族が競って寺院を建立しました。このような寺院建立の主な目的や当時の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 鳥取公立入試 類似)
1. 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。
 2. 聖武天皇が仏教の力によって国家の災いを取り除こうと考え、全国に一律の規格で建立した。
 3. 地方を治める国司が、天皇の代替わりのたびに新しい行政拠点として建立した。
 4. 武士が戦乱の世を逃れ、極楽往生を願って山奥に阿彌陀堂を建立した。
- 問13 7世紀後半、皇位継承をめぐって起こった古代最大の内乱である「壬申の乱」に勝利し、即位した天皇が行った政策として最も適切なものはどれか。 (2021年 埼玉公立入試 類似)
1. 日本最初の銅銭とされる富本銭を鑄造し、天皇を中心とする強力な支配体制を築いた。
 2. 冠位十二階を定め、才能のある人物を役人に登用する道を開いた。
 3. 武士の力を抑えるために、全国に国分寺や国分尼寺を建てるよう命じた。
 4. 和同開珎を鑄造し、唐の長安をモデルとした平城京へと都を移した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 庚寅年籍	白村江の戦いで敗北後、唐や新羅による日本侵攻の脅威が高まったため、天武天皇は強力な軍事・財政基盤を必要としました。そこで、人々の身分を確定させ、兵役や税の徴収を確実にするための基礎資料として全国的な戸籍である「庚寅年籍」の作成を命じました。これにより、豪族が個別に支配していた人民を天皇が直接支配する中央集権化が大きく進みました。
問2	答え 1 唐や新羅による侵攻の危機に直面したため、天皇中心の中持集権国家を急いで確立し、国力を強化しようとした。	強大な唐・新羅連合軍に敗れたことで、当時の日本は国家存亡の危機感を抱きました。そのため、従来の豪族たちの連合体という不安定な組織から、天皇に権力を集中させ、全国の土地と人民を直接支配する「公地公民」の仕組み（律令国家）へと急速に移行させる必要が生じました。近江大津宮への遷都や、その後の天武天皇・持統天皇による政治改革は、この国防上の危機への対応という側面を持っています。
問3	答え 1 唐と新羅	663年、日本（倭）は百済を再興させるために軍を派遣しましたが、中国大陸を統一した唐と、朝鮮半島東部の新羅による連合軍に敗北しました。この結果、日本は朝鮮半島への影響力を失い、国内では唐などの侵攻に備えて大宰府に水城を築くなど、国防体制を急いで整えることとなりました。
問4	答え 1 白村江の戦いで敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国は、大陸からの侵攻に備えて防衛を強化するとともに、強力な中央集権国家を形成する必要性に迫られました。その後、672年に起きた壬申の乱に勝利した天武天皇、およびその跡を継いだ持統天皇によって、日本初の本格的な都城である藤原京の造営が行われ、律令国家の仕組みが整えられていきました。
問5	答え 2 天武天皇	大海人皇子（のちの天武天皇）は、天智天皇の子である大友皇子との争いに勝利して即位しました。この乱を通じて豪族の勢力を抑えることに成功し、法（律令）に基づいた国家運営を推進する強い権力を手にしました。
問6	答え 1 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権体制の基礎を築こうとした。	当時の日本は有力な豪族が勢力を争っており、政治の混乱が続いていました。聖徳太子は、役人が守るべき道徳や心得を示すことで、豪族たちの対立を抑え、天皇を中心としたまとまりのある国を作ろうと考えました。仏教や儒教の教えが取り入れられているのは、それらが普遍的な倫理観として、豪族を教化し国家を統合するのに適していたためです。
問7	答え 1 豪族たちを天皇を頂点とする新たな序列に組み替えるため、八色の姓を定めた。	天武天皇は壬申の乱の勝利を経て、それまでの氏姓制度を再編成し、天皇を中心とした官僚体制を整えるために「八色の姓（やくさのかばね）」を定めました。これにより、豪族たちは天皇に仕える身分として明確にランク付けされることとなりました。蘇我氏を滅ぼしたのは中大兄皇子（天智天皇）らによる大化の改新の始まりであり、藤原京の完成は持統天皇の時代、土地の私有化（墾田永年私財法）は聖武天皇の時代のことです。
問8	答え 1 水城と大野城	663年の白村江の戦いで大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、唐や新羅の日本侵攻を恐れ、九州の政治拠点である大宰府の防衛を急ぎました。平地には「水城」と呼ばれる巨大な土塁を築いて敵の進軍を阻み、山の上には「大野城」などの山城を築いて防衛を固めました。これらの施設は、当時の緊迫した国際情勢を反映しています。
問9	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとした。
問10	答え 1 水城（みづき） — 防人（さきもり）	大敗を喫した天智天皇は、唐や新羅が日本へ攻めてくることを恐れ、九州の政治の拠点であった大宰府の北側に巨大な堤防である「水城」を築きました。また、瀬戸内海沿いに朝鮮式山城を築いて防衛線を整え、東国などから集められた「防人」を九州北部の沿岸警備に配置しました。
問1	答え 1 1 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため	公地公民は、天皇を中心とした中央集権体制を確立するために導入された仕組みです。特定の豪族が土地や人民を私物化することを防ぎ、朝廷が全国の戸籍を作成して人民に土地を分け与える（班田収授法）ことで、租・庸・調などの税を安定的に徴収し、国家運営の財源を確保することを狙っていました。
問1	答え 1 2 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立了。	飛鳥時代には、法隆寺や飛鳥寺に代表されるように、聖徳太子や蘇我氏などの有力な豪族が最新の文化である仏教を取り入れ、その勢力を誇示するために寺院を建立しました。これらは「豪族寺院（氏寺）」と呼ばれ、特定の氏族の繁栄を祈る性質が強いものでした。一方、選択肢にある「国家を守るために全国に建立された寺院」は、奈良時代の聖武天皇による国分寺・国分尼寺を指しており、建立の主体や目的が異なります。
問1	答え 1 3 日本最初の銅銭とされる富本銭を鑄造し、天皇を中心とする強力な支配体制を築いた。	天武天皇は、天智天皇の死後に起こった壬申の乱において、大友皇子を破って即位しました。この勝利によって強大な権力を得た天武天皇は、豪族を抑えて天皇に権力を集中させる中央集権的な政治を推進しました。また、飛鳥池遺跡などの調査から、この時期に日本最古の貨幣とされる富本銭がつくられたことが明らかになっています。冠位十二階は聖徳太子、国分寺の建立は聖武天皇、平城京遷都は元明天皇の事績です。